

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和8年7月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。また、女岳^{めだけ}付近では2015年頃まで地熱域の拡大が認められ、その後大きな変化は認められていません。引き続き地震活動や熱活動がやや高まった状態で経過していますが、その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、女岳からの噴気は認められませんでした。同観測点の赤外監視カメラによる観測では、女岳の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2-②～⑤、図3、図4）

山頂付近では2017年9月以降、そのうち女岳付近では2018年9月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態が継続しています。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図5、図7）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

○活動評価

秋田駒ヶ岳では、2017年9月以降は山頂付近で火山性地震の発生頻度がやや高く、低周波地震も時折発生しています。今期間、山頂付近の火山性地震の発生頻度に特段の変化は認められていません。また、女岳付近では2015年頃まで地熱域の拡大がみられましたが、その後大きな変化は認められていません。これらのことから、噴火の兆候は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年8月分）は令和8年9月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の状況（7月13日）と地表面温度分布の状況（7月1日）

・東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約5km）の可視及び赤外熱画像です。

女岳からの噴気は認められませんでした。

女岳の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

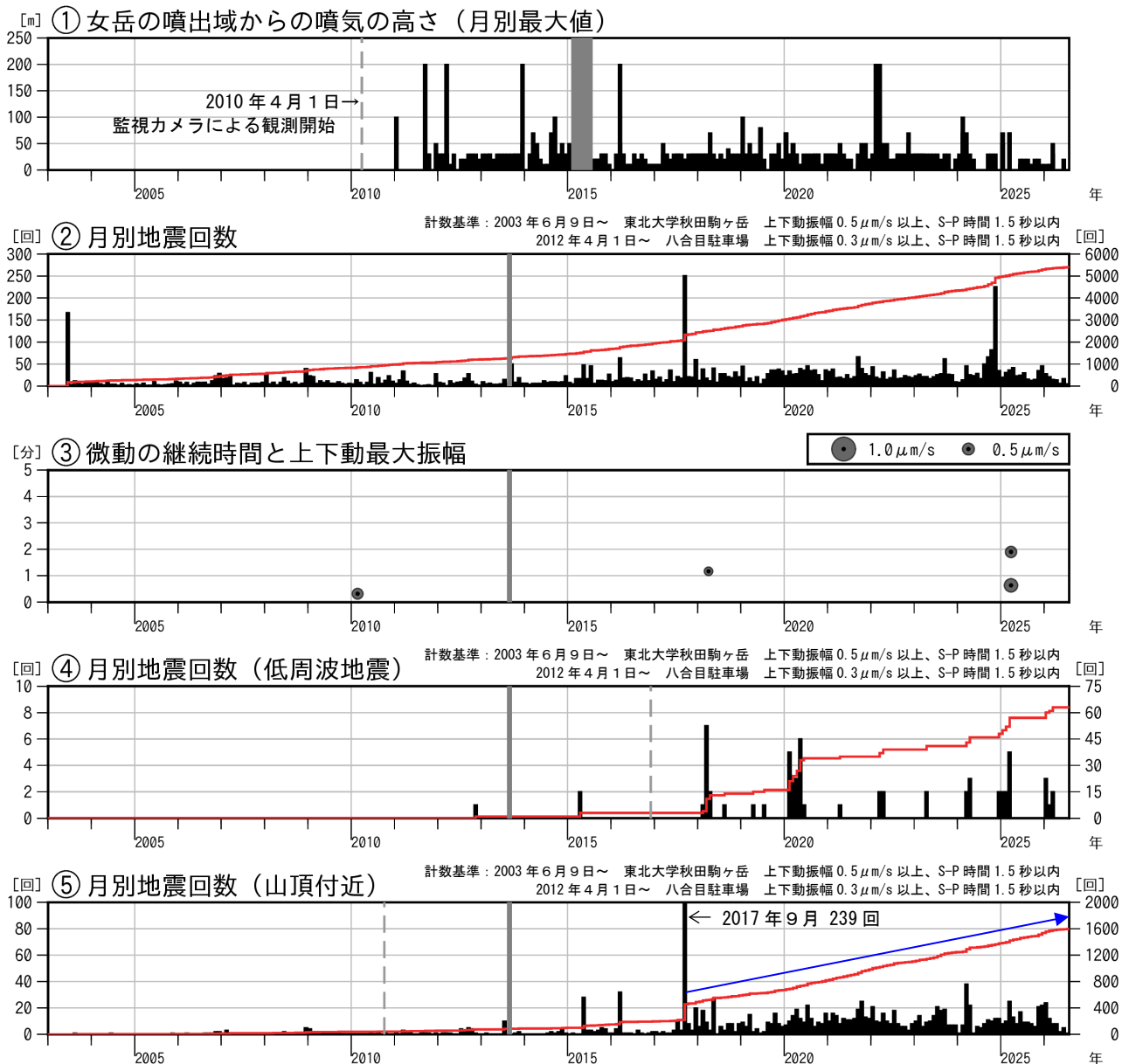


図2 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2026年7月）

- ・④姿見ノ池西観測点の運用開始（2016年12月1日、④破線）以降、検知力向上により低周波地震を判別しやすくなっていると考えられます。
- ・⑤「山頂付近」で発生したと推定される地震の回数を示しています（「山頂付近」は「女岳付近」の回数も含みます）。2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（⑤破線）以降は、山頂近傍に観測点が配置されたことにより、山頂付近で発生している地震を概ね判別できていると考えられます。
- ・赤線は地震回数の積算（右目盛）を示しています。
- ・图中灰色部分は欠測を表しています。

山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています（⑤青矢印）。

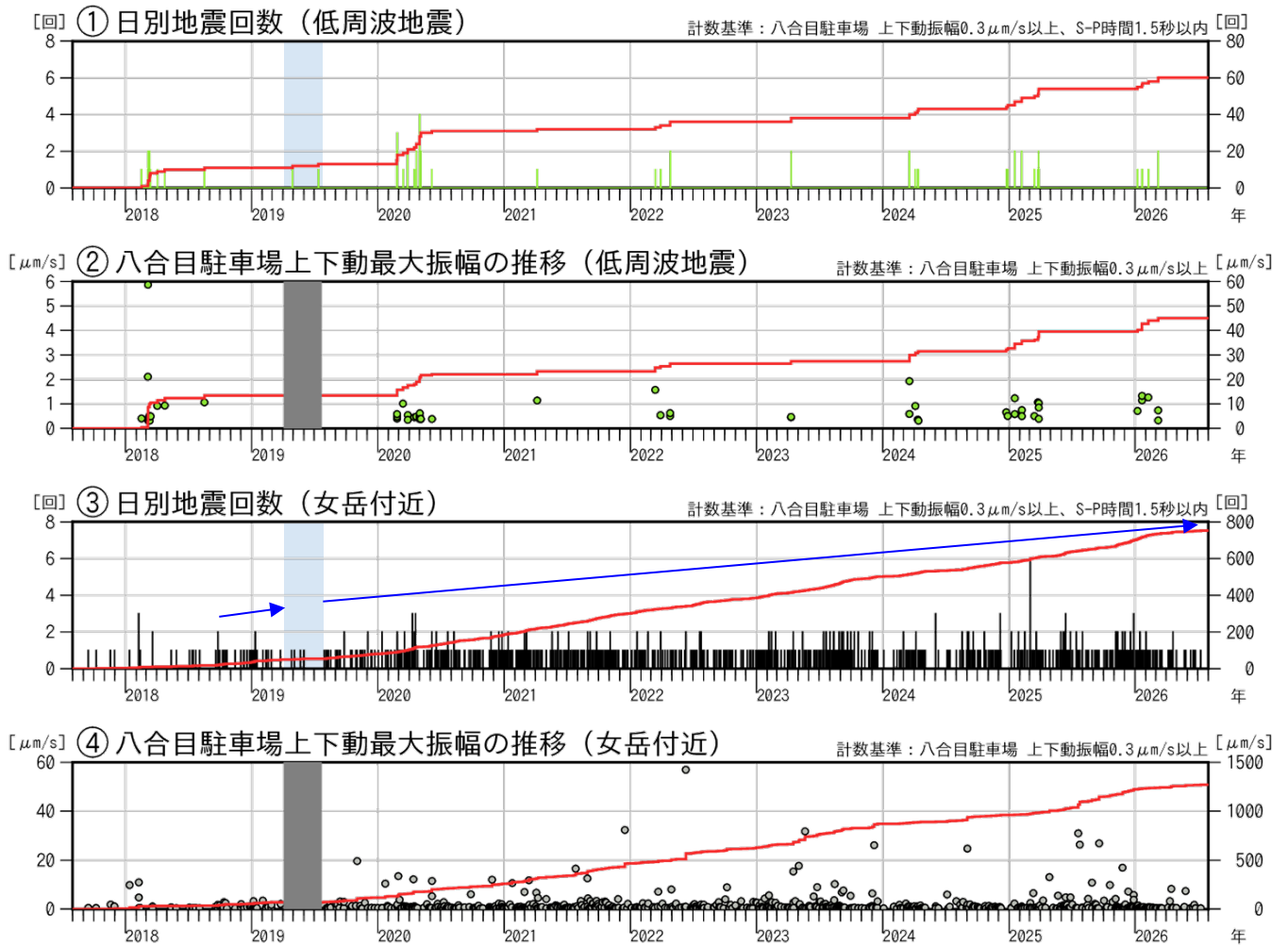


図3 秋田駒ヶ岳 低周波地震及び女岳付近の日別回数と最大振幅（2017年8月～2026年7月）

- ・②④の灰色部分は八合目駐車場観測点の欠測期間を示し、①③の青色部分はそれにより検知力が低下している期間を示しています。
- ・赤線は地震回数または低周波地震の振幅の積算（右目盛）を示しています。

2018年9月頃から女岳付近の地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています（③青矢印）。

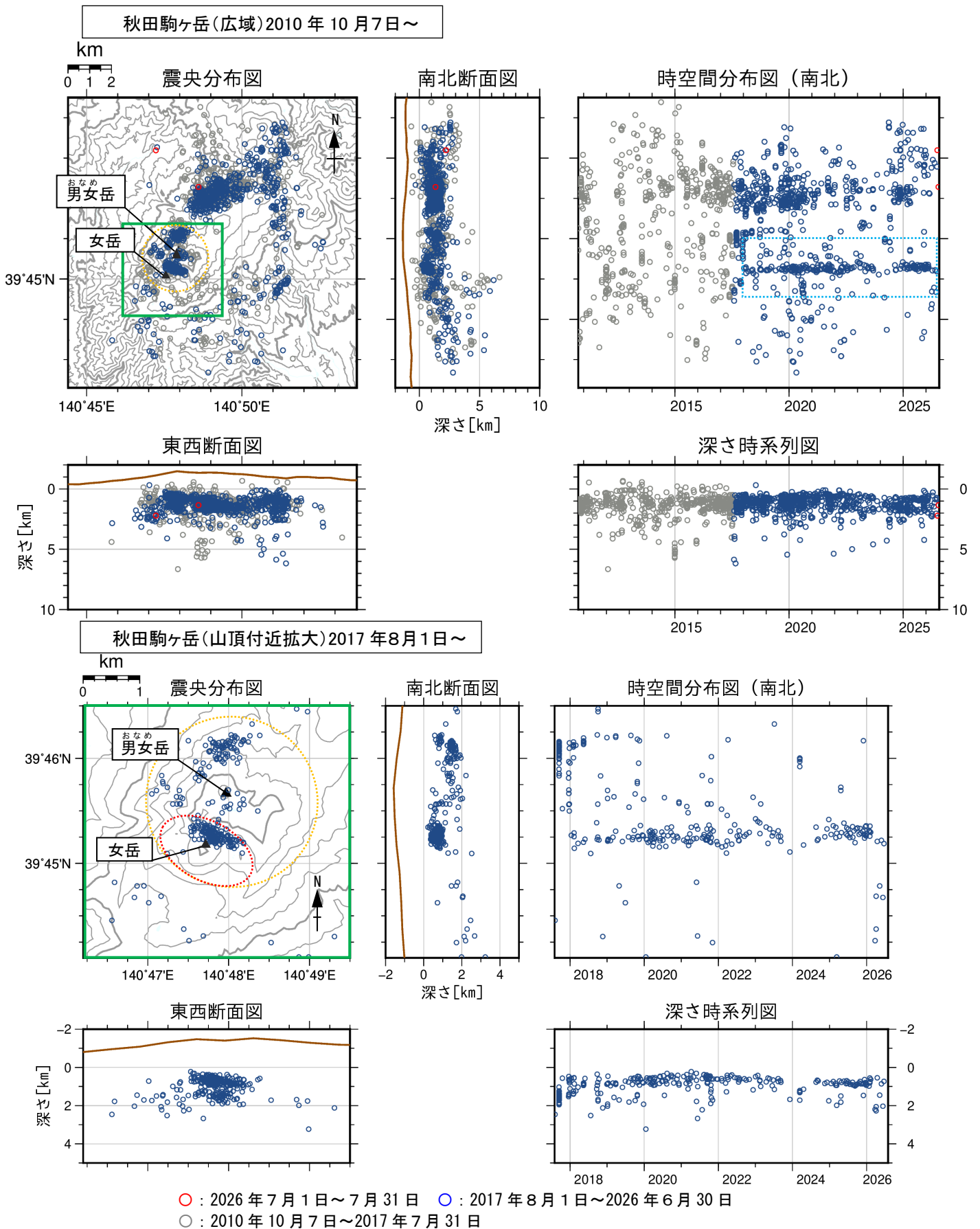


図4 秋田駒ヶ岳 地震活動（2010年10月7日～2026年7月）

- ・ 橙破線及び赤破線の領域は、それぞれ「山頂付近」及び「女岳付近」としておおよその領域を示しています。
- ・ 2017年8月1日から姿見ノ池西観測点を震源計算に使用しているため、山頂付近の震源のばらつきがそれ以前より小さくなっています（水色破線）。

女岳付近に震源が求まった火山性地震はありませんでした。

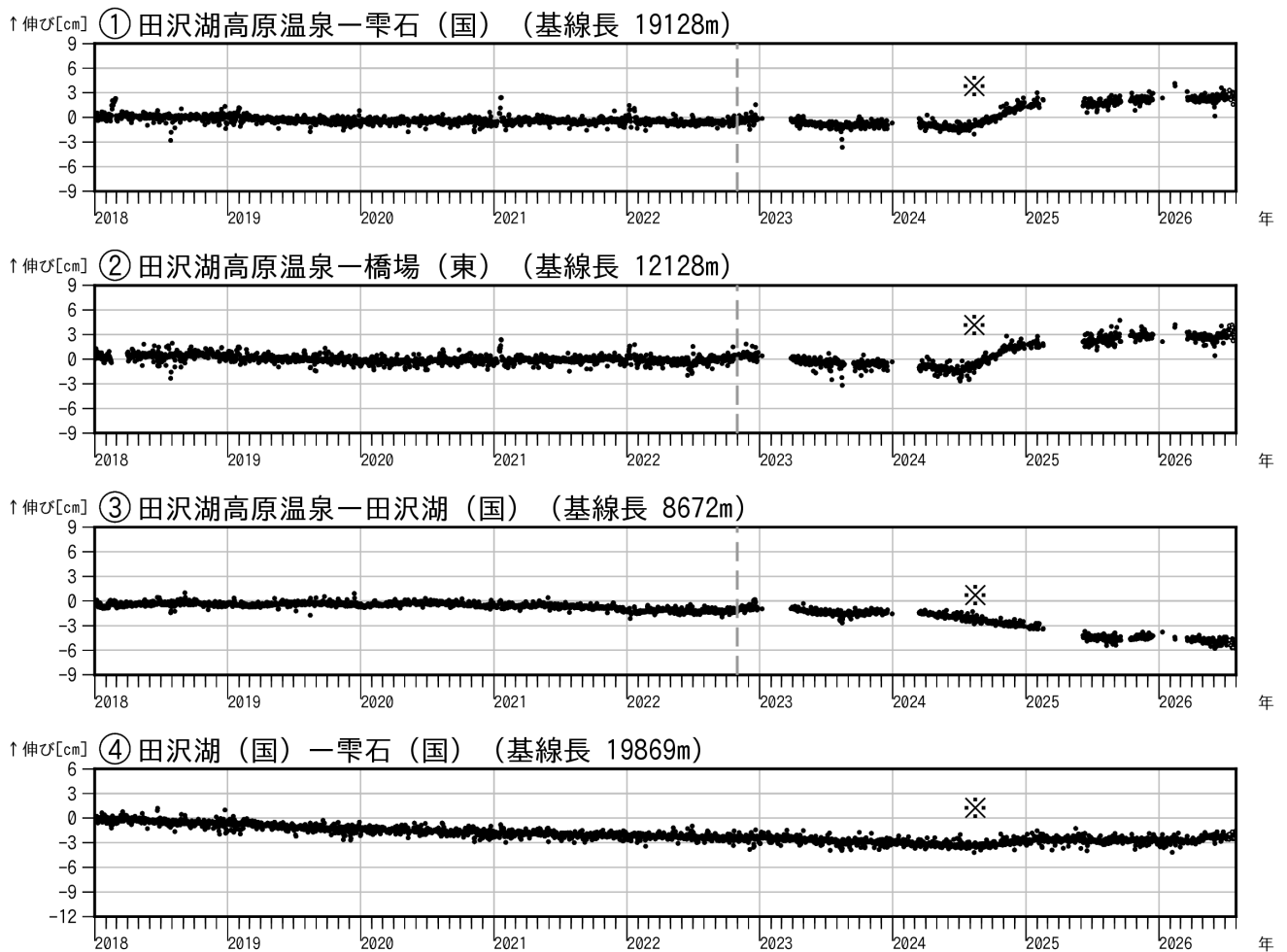


図5 秋田駒ヶ岳 GNSS 基線長変化図 (2018年1月～2026年7月)

- ・①～④は図7のGNSS基線①～④に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。
- ・①～③田沢湖高原温泉観測点の機器更新を行いました(破線)。
- ・2026年4月20日の三陸沖の地震に伴うと考えられる変動が一部の基線に含まれています。
- ・白抜き丸のプロットは速報的な解析結果を示しています。
- ※：岩手山の火山活動に関連する変化と考えられます。

秋田駒ヶ岳の火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

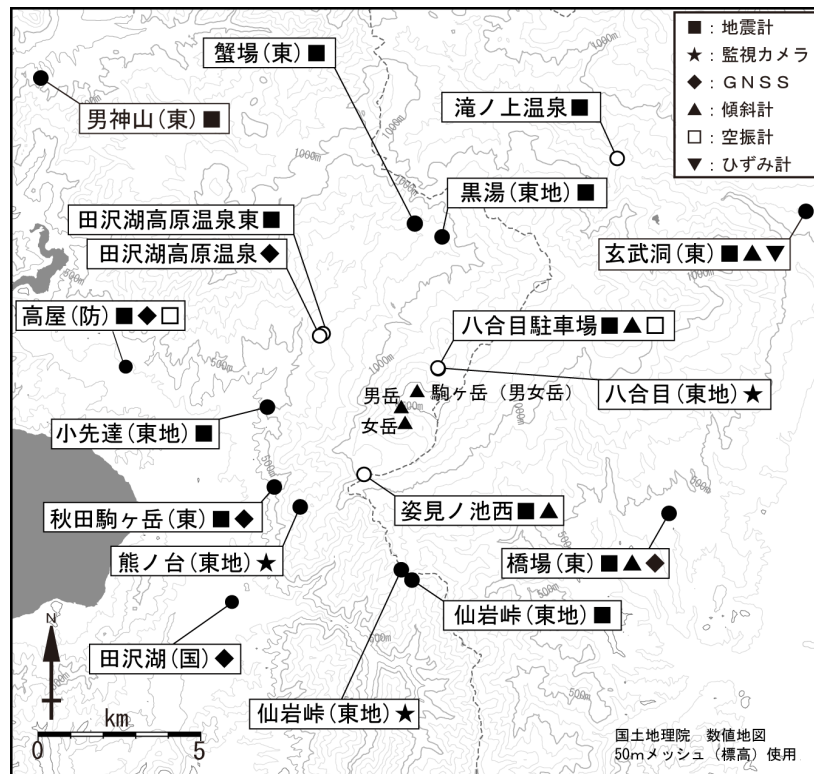


図6 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （国）：国土地理院 （東）：東北大学

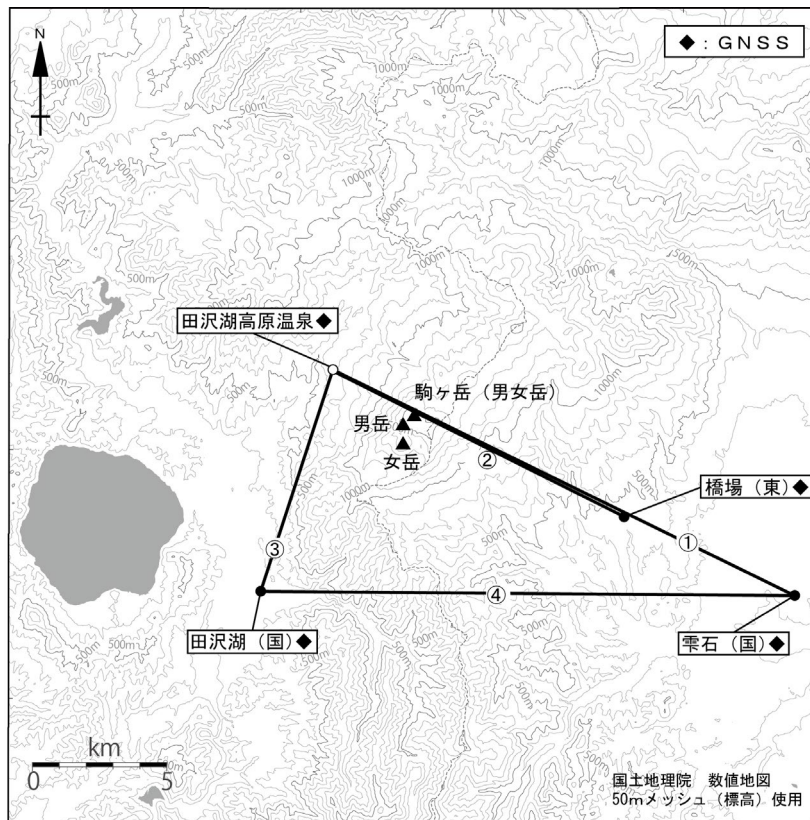


図7 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学